婚六ケ月目の我が恋女房殿は、「あら、写真の方があなたより数段ハンサムじゃない」と一言。

結婚してから住所も大宅文庫に近い桜上水に移り住み、益々利用する機会の増えた今日この頃である。

それでは最後に、我々夫婦だけのユニークな大宅文庫利用法を一つ。

最近結婚して安心したせいか、三キロも太りやがった女房のたっての願いで始めた毎朝のジョッキング。その折り返し地点として大宅文庫を使わせて頂いているのである。大宅文庫バンザイ。これからもネタ下さい。

（光文社・女性自身記者）

大宅文庫の利用法

青山佳裕

この原稿を依頼されて、さっそくまた大宅文庫を利用するはめになった。

今までにも何べんか引こうと思い立ったのだが、つい気はずかしさが先に立って引きえなかった項目を、やっとの思いで引いてみる決心がついたからである。

その項目とは「花柳章太郎」「花柳喜章」という二人の役者についてであった。

実はこの二人、私にとっては祖父と父にあたる人たちである。

二人の項は合わせて90項目ほどあった。おはずかしい話だが、その中には女性自身に載せて頂いた私の父によせる手記も含まれている。

改めてそれを読み返してみると、これはもう冷や汗ものなのだが、そのコピーをみた新